１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0372400069		
法人名	社会福祉法人　マキバの会		
事業所名	グループ・ホーム　杜の家　自遊舎		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町沢内字貝沢４地割９８ー３		
自己評価作成日	平成27年8月16日	評価結果市町村受理日	平成27年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0372400069-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目１９番１号
訪問調査日	平成27年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念であるターミナルケアの実践を続けていくため、最後まで変わらぬ暮らしを送っていただけるように、スタッフは更なる介護技術の向上に努めながら、心に寄り添う姿勢を保つように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者を中心に、全職員が自己評価に参加して、入居者や家族にとって、必要なケアが提供できているかを常に反省しながら取り組んでいる様子は、家族の感謝の言葉からも、窺い知ることができる。理念で謳われているように、看取り介護を行い家族からは、絶対的な信頼を得ている。自宅が遠方の家族には、事業所の部屋を葬儀に提供したりと、利用者および家族本位の支援をしている。一枚板の大きなテーブルを囲んでいる入居者の方々は、自然の中の大きな家族のようで、微笑ましい雰囲気であり、調査員も温かい気持ちにさせられた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然な笑顔を創り出し最後まで変わらぬ暮らしを」この言葉を理念に掲げ、最も必要とされているサービスを職員で話し合い共有しながら日々の実践につなげている	開所時に制定された理念であるが、謳ってある思いは今も変わりなく、申し送り時や、担当者会議で話し合い、本人が必要としているサービスが何かを検討して、実践につなげている。職員全員が自己評価に参加をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や施設の行事への参加など年に数回の交流がある　近隣の住民からは野菜や山菜のおすそ分けを頂いたりと地域とのつながりを大切にしている	ホームの周囲に人家は2～3軒で、人の往来は少ない。地域の敬老会、保育所の運動会には出かけ、参加（パン食い競争）している。ホームの夏祭り、クリスマス会には、家族の参加もある。小学校、保育所の子供が歌やお遊戯を披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での介護研修や家族を対象とした認知症対応の勉強会を実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は家族や行政関係者、第三者委員、地域住民で構成されている　会議では活発な意見がだされ施設の運営に生かされている	家族全員に、開催案内をしているが、参加は一部のご家族となっている。ホームの環境整備や、備品の整備に対して意見をもらったり、了解を頂いている。県道から玄関までの道路舗装が今後の課題であり、委員の方々の助言を得て、進展を図って行きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会や会議へは積極的に参加している　研修内容は施設へ持ち帰り職員全員で共有し実践で生かされている	推進会議の委員としての参加もあるが、町主催の各種会議に参加をして、交流をしている。役場に出向いたり、メール、電話等で随時連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしていない　また、代替法がなくやむおえず介護衣を着用する場合は家族に経緯を説明し承諾書にサインを頂いている	夜間のみ介護衣を着用させている利用者が1名おり、正規の手続きはしているものの「身体拘束」が長期間に及んでいることを苦慮しており、代替方法等、改善の方向性について、模索する必要があることを認識している。	加入しているグループホーム協会等、他の事業所の対応方法や改善例など情報収集するとともに、医師等からの助言指導も受け、改善の方向性を早急に検討することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の思いに共感し、身体はもちろん言葉での虐待に至らないように職員同士お互い注意し合い勉強会を重ねている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会は積極的に参加しているが、現在該当者がいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や法改定の際は十分な説明を行い納得、理解されたうえでサイン、押印を頂いている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年度家族アンケートを実施し意見を反映している	前回の外部評価結果を受け、独自の様式を作成して家族アンケートを実施（平成26年11月）している。意見箱は設置しているが利用された例はなく、通院や面会で家族が事業所に訪れた際に、利用者の状況説明をしながら意見や要望を聞き取るようにしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい	スタッフ会議を月１回開催し職員の意見や提案を聞いている　急を要する事案は随時開催し職務に反映させている	職員が代表者や管理者と気楽に会話できる環境があり、利用者が心地よく暮らすための職員提言（入浴用椅子の改善、ホールにソファ設置）の実例などがある。「夜勤が１３時からの２４時間勤務のため大変さはあるが、明け後の2日間の休日の良さもある」と職員は語る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら給与や賞与に反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会や介護労働安定センター、県や町の研修会に参加できるようにシフトを組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉にならない思いに耳を傾け寄り添う姿勢を心掛けている　また家族からの聞き取りは時間をかけて丁寧に行い信頼関係を築けるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望に耳を傾け信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種と連携し本人にとって何が一番大切かを見極め支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する仲間として、お互いに必要とされる関係になるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの悩みや相談には真摯に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙など本人からの希望があれば都度対応し、お盆のお墓参りも毎年行っている	墓参り、自宅見学、近所の人と会いたい、魚を買いに出かけたい等の要望が出ている。出来ることは、その都度対応している。家族や知人に毎日手紙を書く人がおり、数通まとめて投函している。家族との接点が少ない人には、皆の輪の中に入り易いように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を工夫したり職員が仲介に入ることで関係の悪化を未然に防いでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関との連携を継続し終了後も経過を見守ったり相談に応じている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を表情や行動から汲み取れるように常に関心をはらい、本人の立場に立った視点から物事を見極められるように努力している	入居者担当は決めているが、状況はすべての職員で共有している。口頭伝達以外に、日誌での確認をしている。口では言えない入居者には、表情から読み取って対応している。職員では対応が困難な時には、家族に電話をしてフォローをしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、他機関の関係者の聞き取りに重点を置き過去の生活歴や生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ができる事、やりたい事を見極め持てる力を発揮できるように支援している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人や家族の意向を確認し話し合いの場を持ちながら最も必要とされるサービスを盛り込んだ介護計画を作成している	スタッフ会議で話し合われたことを基本に、担当者、管理者が看護師の助言を受けながら作成している。6ヶ月ごとにモニタリングをしているが、状況に応じて随時検討をしている。介護レベルが低下してきている入居者は家族と頻回に連絡を取り、本人の思いに寄り添った支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別の支援経過に記録し申し送りやスタッフ会議で情報共有している　また、必要に応じて家族に報告・相談し介護計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望には事業所としてできる限りの対応を心掛けている　他機関の利用も視野に入れニーズに合うサービスを一緒に検討している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校や保育所の行事参加、地区敬老会への出席など本人を取り巻く地域資源を活用し楽しく生活できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談しながら、希望する医療機関を検討し適切な医療が受けられるように支援している	ホームの協力医は、協立診療所で5名の入居者がかかりつけ医にしているが、訪問看護師は、週一回全員を診てくれる。2名は沢内病院に通院し、2名は診療を必要としていない。町内（通院）は職員が付き添い、口頭で状況を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年より訪問看護と業務提携し、週一回の利用と24時間いつでも相談・連絡がとれるようになり一人ひとりの健康管理に役立っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と施設共有のサマリーを作成し活用している以前より詳しい情報交換ができるようになった		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナル期の指針を作成した　それに基づき家族と話し合い、介護と医療の面から同じ方向性で支援できるように取り組んでいる	平成25年9月に「看取りの指針」を作成した。作成後、家族に説明をし、理解を得て、同意をいただいている。職員は本人と家族の想いを一番に、尊厳を守りつつ、家族の安心に繋がる支援が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署と連携し救命講習や応急処置の訓練を定期的に行っている　さらに施設内研修や勉強会を通じ実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他施設の訓練の様子をビデオ鑑賞し優れている点を取り入れている　また定期的な訓練と地域の消防団と消防署による合同訓練を行い協力体制を築いている	消防職員から、担架の作り方、避難の仕方等を指導いただいた。緊急時はまず、玄関まで移動、近くの職員（2～3分で駆け付けが可能）の到着で移動する。夜間訓練のビデオで学習をしたが、実際夜間訓練はしていない。近所との協力体制は図られていない。	薄暮時の訓練体験が必要と思われる。周囲に人家が少ない環境ではあるが、訓練時に見学の案内をして、ホームの現状を理解してもらうことから始めて、協力体制を構築していくことを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重しその人らしさを大切にしている	トイレ介助、入浴介助時には、本人の気持ちを大事にして接している。名前で呼ばれることに嫌悪する方もおり、職員は苗字で呼んでいる。同姓である時には、本人の了解を得て、名前で対応している。不機嫌な入居者の体に手をかけて優しく話している職員の態度に、日ごろの様子が窺い知れた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	～しましょう。ではなく～しませんか？と本人が自己決定し答えを導きだせるような対応を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など施設の決まりを押し付けず本人の希望に添った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり一緒に考えて季節や気分にあったおしゃれを楽しんでいる散髪も本人の希望を取り入れている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態を把握し個々に合わせた支援をしている　食事の下準備や配膳・下膳などできる能力に合わせ職員と一緒に行っている	大きな一枚板のテーブルで、季節の野菜を取り入れたメニューが提供されている。献立は、予め立てるのではなく、ある食材で作り、提供後に記入をする方法である。皮むき、刻み方が出来る方、茶碗を拭く方と出来る範囲での手伝いをしている。夜勤以外の職員は、弁当持参である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を検食日誌に記入し状態の把握に努めている　また以前の食生活から本人の好みや苦手としているものを把握し栄養の偏りに注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態により個々に合わせた口腔ケアを毎食後実施している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所前は失禁が多くリハビリパンツを使用していた方が入所後の排泄環境の整備や声掛けにより排泄が自立した	男性1名、女性3名の方は、ほぼ自立であるが、それとなく見守りで支援している。4名の方はリハビリパンツ＋パットである。1名の方はレベルの低下が著しく、夜間はオムツを使用している。調査員には、全くわからないようにトイレ誘導が行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼らず食べ物や運動などで予防している　時間をみてのトイレ誘導や本人の表情などから排泄のリズムをつかむ努力をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂嫌いの方が工夫した声掛けや気の合うスタッフの対応などで拒否なく入浴し清潔を保てるようになった	月・火・木・土の4日間を入浴日とし、週2回の入浴が出来るような体制になっている。他の職員がそれ以外の職務に専念できるよう、その日の入浴担当を決め、対応している。入浴拒否の際も声掛け等に努めるが、清拭やドライシャンプーで対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のスケジュールは本人が自由に使えるその生活のなかで気兼ねなく休息したり安眠できるように環境を整え支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの投薬状況を把握し経過や不明な点については都度医師に相談し症状の変化に対応できるように支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性に合わせたレクリエーションや行事を提供しその人らしさを大切にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回の買い物デーで外出の機会を得、ストレスの発散や気分転換に努めている　家族との温泉旅行を希望した利用者は、職員同行のもと一泊旅行を楽しんでいる	買い物ドライブ、買出しに同行、家族と買い物に行くなどしている。ホームの中でも、散歩や体操をしたり、畑での野菜作り、草取りなど、体を動かすように声をかけて行動を促している。一人でホームの中をゆっくり歩いたり、押し車で歩行訓練をする方もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持・使うことができる利用者は本人の意思で自由にお金を使うことができる　今夏の納涼祭では出店の焼きそばやフランクフルトなどを自由に買い求めお金を使うことの楽しさを味わっていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状など都度対応している電話の希望があるときも快く対応しつながりを大切にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不穏につながる不快な環境は職員の気付きにより排除されている　共有スペースには季節ごとの利用者の作品や写真が飾られている	薪ストーブ、畳の小部屋、ソファーと自由に選択が出来、思い思いにお気に入りの場所を楽しんでいる。ほとんどの入居者は居室に戻らず、ホールで過ごしている。行事の写真は、4ヶ月毎に交換して掲示している。似顔絵の貼り絵は、特徴をつかみ、よく似ており、楽しい作品であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は和室やソファーなど思い思いの場所でくつろいでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の模様替えは本人立会いのもと希望を取り入れながら行っている　本人の状態に合わせた環境整備に重点をおき居心地よく過ごせるように支援している	洗面台だけが備え付けで、ベット、整理箪笥等は持参である。他にポータブルトイレ（2名）、テレビ（2名）位、牌、座椅子、花、人形等家の部屋がそのまま移動したような居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはそれぞれに名称が設けられ人目で分かるように配慮されている　持てる力を活かし、できる事を増やしながら自立した生活ができるように支援している		